

新堀川駐車場の一部撤去による新堀川環境変化の調査結果

1. 調査の目的

県では、従来、光が当たらなかった箇所に太陽光が射し始めることで、環境がどのように変化するかを確認するため、平成20年8月に新堀橋北側の駐車場の一部を撤去し、現在まで5年間、駐車場撤去部の環境の変化を観測しましたので、これまでの結果をお知らせします。(観測地点は下図の①から③の3地点)



① 駐車場下
(従来、光が当たらない場所)



② 駐車場撤去部
(新たに光が当たる場所)



③ 横堀公園前
(従来、光が当たる場所)



駐車場撤去部(撤去前)



撤去後

2. 駐車場撤去部でみられた変化

干潟に生息している底生生物などの調査を実施した結果、以下のようなことがわかりました。

- ◆ 駐車場撤去部では、光が当たり始めたことによって藻類の生育が活発になり、干潟生態系のベースとなる珪藻類・微細藻類の増殖がみられました。
- ◆ 藻類を食べるカニ類やコアマモといった海草、ヤマトシジミなどの貝類がみられるようになりました。
- ◆ 駐車場撤去部に生息する底生動物は、干潟の土の粒度組成(粒の大きさ)によって変化することもわかりました。



駐車場撤去部で採取した底生動物

<p>貝類</p> <p>ヤマトシジミ</p>	<p>海草類</p> <p>コアマモ</p>	<p>カニ類</p> <p>チゴガニ</p>	<p>フタバカクガニ</p>
-------------------------	------------------------	------------------------	----------------

駐車場撤去部で確認された代表的な動植物

3. 専門家による検証結果

調査結果をもとに、駐車場撤去部の環境変化について、各専門家による検証を行った結果、以下のような検証結果が得られました。

撤去部については、

1. 光環境の改善により、干潟の動物の餌環境は向上(底生微細藻類の増殖)し、チゴガニ等の甲殻類が継続的に餌場として利用している。さらに、コアマモの分布も確認され、今後、魚類等の生息地として機能することが期待される。
2. 化学環境や甲殻類以外の底生動物については、物理環境の変化に左右され、光環境の変化による顕著な効果はみられない。